

防災・環境グループ

防災・環境グループの質問を始めます。

私たちのグループは、災害時の安全確保や、自然と動物を大切にする取組について話し合いました。

このことについて、2つの質問をしたいと思います。

質問1 「避難所やハザードマップの安心・安全性」について

一つ目の質問は、「避難所やハザードマップの安心・安全性」についてです。

以前発生した災害では、ハザードマップについて、危険と示されていない場所で被害に遭ったり、マップで色がいないところは安全と思い込んでしまったり、ネット上のマップの情報が更新されていない場合もあるように思います。

また、避難所についても、身近な地域で必ずしも安全でない場所が避難所になっていたり、避難所とされた施設が老朽化しても改修されていないケースや、避難所の場所が認知されておらず、いざというとき利用できないことが見られます。

そこで1つ目の提案です。ハザードマップについて、地形の変化や新しい建物に対応できるよう更新頻度を多くしたり、利用者に正しく危険を伝える工夫をしてはどうでしょうか。避難所については、立地環境の安全性を確認し、危険のない場所を指定したり、耐震性の強化を含め施設の改修を進めるほか、災害時に避難所になる建物であることを、普段から地域の人に認識してもらえよう、よく分かるような表示を工夫してはどうでしょうか。

また、災害は、発生した時にそこにいる全ての人に降りかかります。その中には、障害のある人や外国人もおり、県外や外国から来た人も被災する可能性があります。したがって、どんな人でも分かりやすく避難でき、避難所を利用できるようにしておくことが大切です。

そこで2つ目の提案です。障害のある人、外国人、他県や外国からの旅行者などにも分かりやすく伝えられるハザードマップや避難所の表示を、より多くの言語や絵などを使って工夫してはどうでしょうか。また、スロープや点字案内を整備するなどして、誰でも利用しやすい避難所の整備に取り組んではどうでしょうか。

多くの命を守るため、私たちも、詳しい人に聞くなどして災害について勉強し、周囲の人たちに防災の呼びかけをしていきたいと思えます。

答弁（知事）

まず、1つ目の御提案であるハザードマップの更新頻度を増やし、利用者に危険を正しく伝える工夫や、避難所の立地環境の確認などについてお答えします。

県民の皆様適切な避難行動をとっていただくためには、正確で分かりやすい情報を発信するとともに、皆様にその情報を正しく理解してもらうことが大切であると認識しています。

そのため、広島県では、がけ崩れなどの土砂災害の危険性がある土砂災害警戒区域等や洪水、津波、高潮などによる被害の恐れがある浸水想定区域等について、市町へ情報提供し、各市町では、それらの情報を基に、ハザードマップを作成して、印刷物やホームページ、イベント等により、住民の皆様への周知を図っています。

また、ハザードマップの更新については市町が迅速に対応できるよう 砂防ダム等の整備や 宅地開発等による地形の変更などに合わせ、最新の情報を提供しているところ

です。

避難所については、想定される災害による影響が比較的少ない場所にあることなど、災害時における安全性を考慮し、市町が指定することとされています。

県では、市町に対し、避難所を指定する際には、想定される災害の種別に応じて、

- ・避難経路や避難スペースが確保されていること
- ・頑丈な建物であること

等の安全性の確保を求めるとともに、避難所となる施設の耐震化や防災機能設備の強化についても、働きかけているところです。

また、避難情報が発令された場合など、避難所を開設する際には、土砂災害や浸水等の災害の状況や施設・敷地等の被害状況を踏まえ、安全性を確認した上で、開設することとなっています。

加えて、地域の人に、適切な避難行動をとってもらうためには、普段から、避難所となる建物を認識してもらうことが重要であると考えています。

避難所の表示については、日本全国どこでも同じものとなるようピクトグラムにより標準化されており、県としては、引き続き、市町に対し、この方法による表示を

促すとともに、市町と連携し、地域の避難訓練等を通じて避難所の周知に取り組んでいきます。

次に、2つ目の御提案である障害のある人、外国人、他県や外国からの旅行者などにも分かりやすく伝えられるハザードマップや避難所の表示についてお答えします。

災害時において、障害のある人、外国人、他県や外国からの旅行者など、全ての人に迅速かつ円滑に避難していただくためには、危険な箇所や、避難所など、必要な情報を分かりやすく発信することが重要であると認識しています。

障害のある人については、県内の市町に対し、ハザードマップや避難所の表示に、点字、音声、イラストを用いたり、文字を大きくするなど、心身の状況に応じて、情報を理解しやすいような工夫を行うよう促しています。

また、県内の複数の市町においては、旅行者を含む外国人の皆様が、災害時における避難所を確認できるよう、ハザードマップや避難所の表示について、ピクトグラムの活用や多言語化に取り組んでいます。

加えて、「広島県防災Web」や「広島県防災情報メール」により、避難情報を発信する場合などにおきましても、市町と同様の方法により誰もが分かりやすい情報の発信に努めています。

さらに、障害の有無に関わらず誰でも安心して利用できる避難所環境を平時から整えておくことも重要であるため、県では、避難所環境整備に係るガイドライン等を策定し、避難所の開設・運営を行う市町に対し、点字やスロープの設置などの環境整備を進めるよう促しているところです。

引き続き、県と市町で連携し障害のある人、外国人、旅行者など全ての人が迅速かつ円滑に避難できるよう、点字、音声等を活用した情報発信の工夫や災害時における避難情報等の多言語化による情報発信の取組を進めていきます。

質問2 「自然や動物を大切に作る広島県の実現」について

二つ目の質問は、「自然や動物を大切に作る広島県の実現」についてです。

人間の都合で森林伐採をした結果、動植物の居場所をうばっているというニュースを目にします。緑豊かだった場所が、土がむき出しになっているのを見ると、悲しい気持ちになります。

広島県では、宮島で天然記念物の木が許可なく伐採されたこともありました。

私たち人間が、自然や動物を大切に作るためには、人間にとって自然や動物がどれだけ大切なのかを知る必要があると思います。自然環境が悪化し、動植物がいなくなったとき、人間は生きていけるでしょうか。

そこで1つ目の提案です。自然や動物の大切さを知ることのできる博物館などをつくってはどうか。

動物の暮らしや直面している問題が分かる動画や展示、未来のシュミレーションのほか、楽しく学べる漫画やアトラクションのエリアも設ければ、誰でも興味を持ってもらえると思います。命の重さを理解することで、自然や動物を大切に作る人が増えるのではないのでしょうか。

次はゴミについてです。私たちが歩く道ばたにも様々なゴミが落ちていますが、海に流れ着いたプラスチックなどのゴミは、海の動物や魚に悪い影響を及ぼしています。亀がビニール袋とクラゲを見間違えて食べて死んでしまうというニュースもありました。

瀬戸内海に流れ込む海ゴミは年間4,500トンあり、その約7割が陸地からのゴミとされています。

このような、自然環境に放出されたゴミによる影響について、多くの人を知り、適切に行動していくことが大切だと思います。

そこで2つ目の提案です。ゴミ拾いを通して、自然界のゴミの問題に関心を高めるイベントを行ってはどうか。例えば、ゴミを拾い、拾ったゴミでアートをつくり対決するなどです。ゴミ拾いをするすることで、自分の地域に落ちているゴミを直接知ることができ、アート作成を通してゴミの量を実感できます。ゴミ拾いというめんどうな行動にも、対決というゲーム要素を加えることで、自ら参加し楽しく環境を守ることができます。

こうしたイベントを通して、多くの方がゴミの問題に関心を持てば、私たちが暮らす地域もきれいになり、もっと自然環境がよく、人も動物も暮らしやすい平和な広島県になると思います。

答弁（環境県民局長）

まず、1つ目の提案である自然や動物の大切さを知ることのできる施設についてお答えします。

広島県では、約1万4千種の多種多様な動物や植物が確認されており、これらは様々な生態系を形成し、食物連鎖などを通じて、繋がりがあって生きています。

人間は、このような生態系の一員であり、自然や動植物から、

- ・水や食べ物、木材などの供給
- ・洪水や土砂の流出の防止
- ・空気の浄化
- ・海や山など観光や憩いの場の提供

などの恩恵を受けています。

そのため、県では、誰もが自然や動植物の大切さを学ぶことができるよう、

・動画や図書館、公民館でのパネル展示などによる数が少なくなってしまった動植物の紹介や、

- ・川や田などでの、いきもの観察会の実施
- ・自然公園施設での、自然とふれあう体験型環境学習会の開催

などに取り組んでいます。

一方で、令和4年度に国が行った世論調査では自然に関心がある人は7割を超えていても、5割の人は何をしたらよいか分からないとの回答があるなど、「自然や動植物の大切さを知り、実際に行動に移す人」を増やすことが重要であると考えています。

このため、県としては、これまでの取組に加え、今後は中央森林公園やもみのき森林公園などの自然公園施設において、御提案のあった博物館のように、誰もが興味を持ち楽しく学べるようメディアと連携した森の手入れや木工教室など親子で参加できる体験型のイベントを行うことにより、「自然や動植物の大切さを知り、実際に行動する人」を増やしていきたいと考えています。

皆さんも、ぜひ自然や動植物と触れ合い、学んでいただき、実際の行動に取り組んでいただくようお願いします。

次に2つ目の御提案の、ごみ拾いを通して、自然界のごみの問題に関心を高めるイベントの実施についてお答えします。

海に流れ出たプラスチックごみは、海の生き物に悪影響を及ぼすほか、生態系を含む海洋環境の悪化や観光への影響など、様々な問題を引き起こしています。

このため、海岸清掃などのイベントを行うことは、単に海を綺麗にするだけでなく、イベントに参加した皆様が、海ごみ問題への関心や意識を高めていく上でも、大変効果のある取組であると考えています。

県としては、企業等と連携した海岸清掃イベントの実施や、県内市町やボランティア団体等が実施する清掃活動の情報を紹介するなど、事業者や県民の皆様に広く参加を呼びかけているところです。

一方で、清掃活動を県内に広く展開していくためには、普段から活動に参加する方だけでなく、若者や親子連れなど、色々な立場の方の興味・関心を引き付け、実際に参加していただけるかが課題となっています。

このため、県では、より多くの方がごみ問題に関心をもち、楽しみながら清掃活動に参加できるようなイベントが県内で広く行われるよう、事業者や団体の自主的な取組を後押ししており、

御提案のあった、対決というゲーム要素を取り入れた取組としては、

- ・ チームで協力して拾ったごみの種類や重量、ミッションの達成度などをポイント換算し、競い合う「清掃中」や

- ・ ごみ拾いにスポーツの要素を掛け合わせた「スポGOMI」

などが実施されています。

また、同様に御提案のあったアートを切り口に、海洋プラスチックごみ問題について考える機会としては、地域の活動団体において、

- ・ 海岸清掃と併せて、拾ったごみを使ったアート作りのワークショップ、
- ・ 海洋プラスチックや漂流物を素材に制作した絵画作品の展示会

などが実施されているところです。

県としては、今後とも、今回いただいた2件の御提案の趣旨にもあるように広く県民の皆様の意識を高め、実際の行動につなげていくため、多くの方が自然環境への関心を高め、楽しく参加できるような取組が継続的に実施されるよう、事業者や市町とも連携し、自然環境がよく、人も動物も共存できる広島県の実現に向けて取り組んでいきます。